

佐賀・佐世保を「日本版海兵隊」の出撃拠点にするな

「戦争法具体化の一切をやめ、廃止せよ」 仁比議員が追及



日本共産党の仁比聡平参院議員は1月19日の予算委員会で、佐賀空港オスプレイ配備と連動して「日本版海兵隊」の水陸機動団の出撃拠点づくりが長崎県佐世保市で一気に進められようとしている実態を暴露し、戦争法の具体化をやめ、同法を廃止するよう求めました。質問の要旨を紹介します。

日本共産党

質問動画は
コチラ⇒



戦争法により「真の意味で役割が拡大」

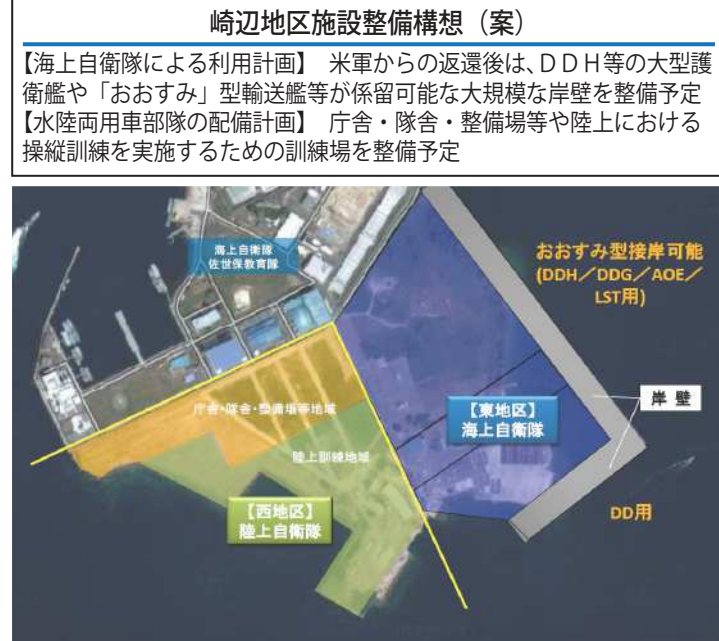
仁比議員は、2015年の戦争法案の審議で日本共産党が暴露した会談記録に、河野克俊統合幕僚長がダンフォード米海兵隊司令官に対し、水陸機動旅団創設や日米共同訓練参加に意欲を表明し、「集団的自衛権の行使が実現可能となった場合は自衛隊の

役割も拡大でき」と発言。米司令官は「真の意味で役割が拡大。オスプレイ、水陸両用車への協力は惜しまない」と述べていることを明らかにし、「極めて重要なやり取りだ。政府は国民に説明する責任がある」と追及しました。

佐世保に水陸機動団の新基地

オスプレイ着艦のへり空母も

米海軍と海上自衛隊の基地が集中する佐世保港の崎辺地区では、すでに自衛隊の水陸両用部隊の駐屯地やへり空母が係留可能な岸壁を有する自衛隊の新基地建設計画が進められていることを告発(図)。



【仁比議員】 防衛省が佐世保重工業から取得した(崎辺町西側の)土地は何のためか。
【中谷元防衛大臣】 水陸両用部隊を配置する。
【仁比議員】 東側の地区はどうするのか。
【中谷大臣】 大型護衛艦等の艦艇が係留可能な大規模な岸壁等を整備する。

【仁比議員】 米海軍や海兵隊と同じように、水陸両用車が海で訓練をし、オスプレイも着艦できるへり空母で出撃する陸海一体の新基地を佐世保港のど真ん中に造るといふ恐るべき新基地建設。憲法九条の下でまさにタブーとされてきた海外派兵につながる基地を造るといふことだ。

米軍の上陸用舟艇LCAACの駐機場を二百五十億円掛けて移した跡地にまで海上自衛隊の基地を造るとなれば、米軍に提供されていない僅かな水域の自由さえ奪われる。軍事に軍事をもって対抗することは軍事的緊張の拡大と悪循環をもたらす危険な道であり、平和的環境をつくる外交力こそ重要だ。

オスプレイの佐賀空港配備 「地元」の了解は得られていない

(安倍首相)

一方で、佐賀空港には軍事利用を否定する県と地元との「協定」があり、自衛隊オスプレイの基地化は進んでいません。安倍晋三首相は「現時点で地元の了解は得られていない」と、昨年2月、9月に続き三たび確認。

それが民主主義だ。壮絶なたたかいは経て締結された協定の重みをどう考えているのか。
【中谷大臣】 (地元のご)理解を求めているところ。

【仁比議員】 了解は得られていない以上、事を進めることはできない、そ

【仁比議員】 協定の重みを知ろうともせず、配備を持ち出したのが防衛省。大臣が十月に訪問したとき、佐賀の有明漁協からは、「自衛隊が来ても同じ、事故の可能性は捨て切れない」と怒りの声が上がった。米軍でも自衛隊でも「軍事基地化はしない、させない、あり得ない」という重い約束だ。白紙撤回を強く求める。



【仁比議員】 了解は得られていない以上、事を進めることはできない、そ